

第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会
第1回「地域活力の創出プロジェクト部会」 議事概要

日 時：平成22年5月14日（金）15:00～17:00

場 所：八戸市公会堂文化ホール 2階 会議室3

出席者：委員4名（大谷真樹部会長、大野晴治委員、椛沢孝子委員、佐々木伸夫委員）

事務局：政策推進課（上館主査、八木澤主査）

庁内検討ワーキングチーム関係 11 課（南郷区役所企画総務課、農林建設課、観光課、商工政策課、産業振興課、雇用支援対策課、農政課、農業振興課、農業交流研修センター、中央卸売市場、水産振興課）

要 旨：第5次総合計画前期推進計画における戦略プロジェクトの進捗状況を確認し、後期推進計画の戦略プロジェクトの素案について検討した。

結果として、素案の方向性は概ね委員会の了解を得たが、一部、追加を検討すべき新たな施策や、素案の記載方法、事業の実施方法等について意見が出された。

内 容：

1 開会

2 委員及び事務局の紹介

- ・第1回目部会となるため、委員及び事務局の紹介を行った。

3 部会長あいさつ

4 報告案件

- ・事務局から、報告案件を一括して説明。

①参考統計資料の送付について（部会資料1）

- ・今後の検討の参考とするため、第1回策定委員会で要望のあった統計資料を配付。

②アンケート調査の実施について（部会資料2）

- ・調査票の一部変更点とアンケート調査の実施予定日について報告。

③市民との意見交換への協力について（部会資料3）

- ・意見交換の日程概要について報告し、委員へ協力を依頼。

5 審議案件

①戦略プロジェクトの進捗状況と素案について（部会資料4）

- ・事務局から資料を説明後、プロジェクト毎に、前期推進計画における進捗状況を確認し、後期推進計画の素案を検討した。

< 1-1. 企業誘致推進・中小企業強化プロジェクト >

- ・ 前期推進計画の始まりからで、企業誘致は何社か。撤退は何社で解雇は何人くらいか。
→平成 19 年度からの誘致企業は 11 社。撤退は 1 社+来月 1 社撤退予定。解雇について、前者は 10 数名、後者は 50~60 名。
- ・ 中小企業強化について、融資や保証料補助は本質的解決にならない。活用している企業はあると思うが、借り換えに使っていて元本は減っていない。体力強化になっているわけではない。
- ・ 親父から 2 代目への世代交代の時期にある企業も多いと思うので、そこをサポートするような施策を考えてほしい。
- ・ 施策 4 として八戸港の機能強化を追加することについて、LNG、メガソーラーなどエネルギーが集積している。ブランディングして PR できないか。
- ・ 八戸市の製造品出荷額は県内の 3 割以上を担っており、これまで以上に港の強化が必要。そのためには貨物を集中されることが必要。東北全体ではコンテナ取扱量は減っているが、八戸港は増加。
- ・ 市長のマニフェストで今後 4 年間で企業誘致 10 社というのがある。誘致企業フォローアップ事業の中で、定期的な企業訪問でのヒアリングとあるが、その中でどのような情報をつかんだのか。改善した点などはあるか。大谷委員が進出してきているが、誘致企業の進出理由は何か。
→雇用環境が厳しいということは、優秀な人材を確保できるということ。定着率も高い。せっかく育てた人材が辞めることは会社にとって損失。また採用コストが安い。東京では求人広告など、一人採用するのにだいたい 300 万円くらいかかるが、八戸ではハローワークに求人を出すだけで、十分な人数が集まる。
→誘致企業の主な進出理由は、製造業では、港、高速道路など物流面、新幹線で 3 時間で行き来できること、人材の確保など。
- ・ 大学が多いまちというのは人材面で魅力があると聞く。八戸市は 20 万都市としては大学が多い方。
- ・ 八戸港の機能強化の施策を追加することはよいのではないかと。中小企業の根本的な体質改善のための施策が必要。

< 1-2. 攻めの農業プロジェクト >

- ・ ブランド、ビジネスマッチングは商工政策と思う。マーケティングをつかさどる部門が必要なのではないか。ない以上はブランド化は商工部門がやるのが適切ではないか。
- ・ 農業について、農産物その物がブランドというより、それを生産している人やその人の信頼性がブランドと思う。ブランドは生産者と消費者の約束で、売る人にも責任が求められ、連携が必要。
- ・ 失業者が多いのに、農業には担い手がないという。高齢者は体力的に続けられないがノウハウがある。若い人には体力がありノウハウがない。行政としてこれを結ぶ役割として何かできることはあるか。
- ・ 農業への参入促進施策はあるか。農地法改正で企業が参入できる。

→2 ページ目の中小企業向け融資制度の中に農業へ参入する中小企業への円滑な資金供給というのがあるが、平成 18 年頃からの開始で相談はあるが実績はない。建設業からの参入を想定した制度。

- ・ 借地料も含めた土地の情報とノウハウを教えてくれる農業者の人材の情報があれば農業へ参入しやすくなるのではないか。
- ・ 農業の担い手育成は特に重要。農業ビジネスとしてのモデルケースや成功例があれば進むと思う。
- ・ 畜産について、想定される事業はあるか。
→現時点ではない。企業努力で進められている。飼料用米についても検討しているが、大規模な農場では取り組めない。
- ・ 香港のスーパーでは、山形牛が 100g で 15,000 円で売られている。日本国内のどこの産地ということではなく、「和牛」ということで買って行く。視点を変えて、地元で処理し、地元企業企業を活用して、香港などに輸出するしくみはどうか。海外への販路拡大。地産地消ではなく、地産亜（アジア）消の研究事業を考えてほしい。
- ・ 農地についても空き家バンクのようなことができないか。
→農地情報については、農業委員会で作成し、農家に配布している。農家をやるためには資格（農地 30 a 以上、継続してできること）が必要。
- ・ 農地の情報について、企業や熟年者に対しても広報したほうがいいのではないか。

< 1-3. 攻めの水産業プロジェクト >

- ・ 水産業も後継者問題が厳しいのではないか。
- ・ 八戸港の水揚げ量はどのくらいか。
水揚げ量は年間で約 13 万トン。水揚げ高は 233 億。最盛期は 88 万トン。
- ・ アルゼンチン沖で獲れた魚を八戸港に水揚げしたものは地物と言えるのか。水産業ではなくて商業になるのではないか。
- ・ 八戸前沖さばは海の中でブランド化になるのか。イカは水揚げ日本一というが、実際には全世界で獲れている。水産業における八戸ブランドの育成とはどういうものか。たくさん獲れることより、希少価値がブランドではないのか。
- ・ 加工品のブランド化について、サバの展示会に行ったが、本当にたくさんの加工品があった。ブランド化になっているのか。
- ・ 味の加久の屋の 600 円の八戸前沖さば缶が売れている。
- ・ 乾物について、食べ方などを紹介すれば海外でも売れるのではないか。
- ・ 水産物のブランド化は水産振興課でいいのか。マーケティングとブランド化をやるためのブランド推進課を立ち上げてはどうか。
- ・ ブランドについて、後期計画で横断的にプロジェクト一つに集約して取り組むことについて検討してほしい。

< 1-4. 八戸ツーリズムプロジェクト >

- ・ 観光振興は何のためにやるのか。
→県外や世界の方に訪問してもらって、地域にお金を落としてもらう。

- ・ 交流人口増加と物産販売の2つが鍵。はっちには観光はどのくらいで考えているのか。
→はっち準備室等と調整しながら考えたい。
- ・ 10ページの八戸観光協会等補助事業について、事業概要はジャズのことだけのようだが、南郷の観光協会補助事業ではないのか。
→分野別計画との関係で大きな事業名になっている。事業名を修正したい。
- ・ 10ページ観光ボランティアガイド育成について、「はっちでの」は不要ではないか。
- ・ 観光の予算はいくらか。
→3億3400万円。
- ・ 観光にかかる予算は、リピーターなどが増えることを考えると、年々減っていくべきものとする。一見さんを集める施策が多いように思う。リピーターを増やすための施策が必要ではないか。
- ・ 観光客よりもビジネス客を狙った方がいいのではないかと。重要なリピーターと考える。出張者をもてなす仕組みを検討してはどうか。
- ・ ホテル宿泊客の8割がビジネス客。来ている人をどうするか。飲み屋との連携など。
- ・ ビジネス客はついでに見ている。ついでではなく来てもらうことも必要なのではないかと。えんぶりは海外客にも喜ばれると思う。一見さんはなかなか来ないのでお土産もたくさん買うと思う。一見さんも必要ではないか。修学旅行生は八戸には来ないのか。最近では自由行動でタクシーを使うという話も聞いた。タクシー業界も潤う。海外の視点も必要ではないか。
→サラリーマンについては、みろく横丁のPRやあさぐるなどのプログラムも提供している。
- ・ ビジネス客について、展示会やコンベンションの促進も必要ではないか。仕事なら絶対に八戸に降りる。八戸に来させる施策。
- ・ ユートリーに三社大祭の山車が展示してあって、段になっていて上に乗ることができる。3月3日のお雛様にちなんで、衣装を貸し出して写真を撮るなど話題性が必要ではないか。
- ・ 海外客への多言語表記。飲食店のメニューを多言語表記するための支援を検討してほしい。

< 1-5. 産学官民連携プロジェクト >

- ・ このプロジェクトについてどんな成果があったか。連携・交流が目的になっているが、本来は手段だと思う。何か目的があるべき。
- ・ アウトプットが見えない。数値目標、アウトプットを作った施策に。〇〇を〇%あげるなど目標を設定して、評価できるようにしてほしい。連携が何につながっているのか分かるようにする。

< 1-6. 雇用創出プロジェクト >

- ・ 起業家育成が雇用につながる。
- ・ 従来の企業が雇用を増やすことはとても難しい。数年前までなら企業誘致で新たな

雇用を増やすことも考えられたが、それも難しくなっている。八戸での起業を促進するような施策に取り組んでほしい。

- ・ 農業や水産業の若手育成と雇用、目を向けないところをベンチャーで実施する。